

## バンコ・デ・オロ・ユニバンク—— 大谷 拓史

BDO Unibank Inc

業種：銀行

### ● フィリピン最大の商業銀行

バンコ・デ・オロ・ユニバンク（以下、同行）は、資産（市場シェア18%）、貸付金（同23%）、預金（同18%）の面でフィリピン最大の銀行。全国に1600以上の支店を持ち、預金受入や融資といった銀行業務に加え、保険、投資銀行業務なども手掛ける。

同行は、フィリピン最大の財閥企業であるSMインベストメント（同行株の約4割を保有）の傘下。SM系列のショッピングモールに支店やATMを構えることで相乗効果をもたらしている。

2022年第3四半期の純収益構成では、銀行業務が87%、保険が10%、その他が3%。

### ● 2022年7～9月期は大幅な増収増益に

同行の2022年7～9月期は、経常収入が前年同期比20.2%増の576億ペソ、純利益は同45.7%増の161億ペソ。2022年1～9月期の純金利マージン（NIM）は、4.11%（前年同期4.06%）と横ばい、不良債権比率は、2.23%（同3.1%）と大きく改善した。

主な要因として、新型コロナウイルスからの回復に伴う、貸出金の増加（前年同期比9.5%増）に加え、不良債権比率の改善が増収増益に繋がった。

### ● 中長期的な経済成長を追い風に

同行はフィリピンで時価総額第3位の国内最大の銀行であり、フィリピンの景気と相関が強い。そのため、同行に投資する際には経済指標に目を配りたい。例えば、2022年12月に政府が発表した2023年のGDP成長率見通しは6%～7%に下方修正された（従来予測：6.5%～8%）。一方、2024年から2028年のGDP成長率は年6.5%～8%の見通しであり、中長期的な成長が期待されていることから、同行の追い風になるだろう。

また、米国の政策金利引き上げに合わせるかたちで、フィリピンでも2022年内に7回の利上げが行われた。政策金利の引き上げは利ざやの拡大が期待できる一方で、借り控えに繋がる可能性があるため、景気を冷やす要因になりうる。しかし今年に入り、米国の利上げ打ち止めが近いと観測されており、フィリピンでも利上げの打ち止めが期待されている。為替やインフレ率の推移に注視しながら同行の投資タイミングを図りたい。

#### 株式データ

2023/1/24 現在

|        |          |
|--------|----------|
| 株価     | 122.4ペソ  |
| 売買単位   | 10株      |
| 時価総額   | 6443億ペソ  |
| 予想 PER | 12.48倍   |
| ROE    | 11.73%   |
| 52 週高値 | 126.7ペソ  |
| 52 週安値 | 91.667ペソ |

#### 業績推移

【連結】

| 決算期    | 経常収入    | 前年比   | 純利益    | 前年比    | 1株利益 | 1株配当 |
|--------|---------|-------|--------|--------|------|------|
| '19/12 | 179,381 | 22.1% | 44,194 | 35.1%  | 8.35 | 1.00 |
| '20/12 | 187,741 | 4.7%  | 28,246 | -36.1% | 5.31 | 1.00 |
| '21/12 | 191,425 | 2.0%  | 42,791 | 51.5%  | 8.05 | 1.00 |

単位：百万ペソ、ただし 1 株利益、1 株配当はペソ

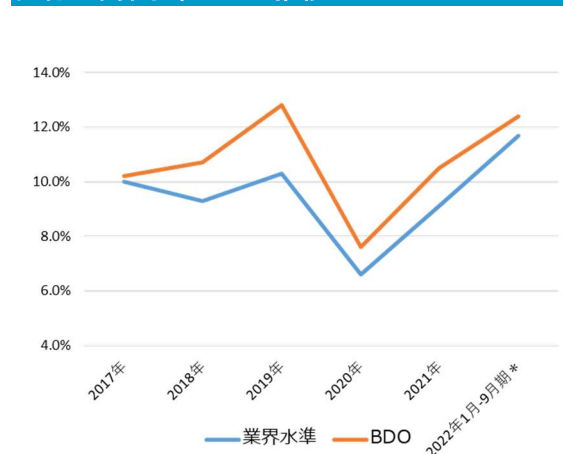
※1 株配当は株式分割・併合等調整済み

#### 株価チャート(週足2022年2月4日～2023年1月20日)



[出所：株式データ、業績推移、株価チャートともにブルームバーグ等、アイザワ証券作成]

#### 同行と業界水準のROE推移



\* 2022年1月～9月期は年率換算で計算

[出所：BDO の IR 資料、アイザワ証券作成]

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を本資料の2ページに記載させていただきました。

## 金融商品取引法に基づく表示事項

### ■ 本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

## 外国株投資の主なリスクと留意点

### 株価・為替の変動リスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。外国株式は、為替の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

### 流動性リスク

流動性が低い銘柄の場合、市況または注文の規模により、望ましい価格での売買注文の執行が常に可能とは限らず、極端な場合、取引ができないことがあります。

### カントリーリスク

投資対象国の経済的要因、政治的要因、社会情勢の混乱により、株式市況が影響を受けることがあります。また、各国の慣習や文化などの違いにご注意ください。

## お客様にご負担いただく手数料等について

外国証券の外国取引にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます（最低手数料は買いの場合のみ 5,500 円）。

対面口座： 売買代金の一律 2.20%

インターネット口座「ブルートレード」： インターネット発注 売買代金の 1.65%、コールセンター発注 売買代金の 1.98%、コンサルネット発注 売買代金の 2.20%

外国証券の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。お取引の際は、契約締結前交付書面等をよくお読み下さい。

## アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

### LINE 公式アカウント はじめました！

ベトナムを中心とした  
アジア情報をお届けします  
[友だち追加はこちらから！](#)



ID: @aizawa